

平成29・30、令和元年度文部科学省指定教育課程特例校(英語教育)

研究のまとめ



特別の教育課程の実施状況に関する 把握・検証結果

A E E(Asagiri Enjoy English)部 会

あさぎり町教育委員会

【新設教科等について】

① 第1～4学年：英語活動

② 第5・6学年：英語科

あさぎり町内全小学校 教育課程表（平成29年度）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の授業時数	特別活動の授業時数	総合学習等の授業時数	外国語等の授業時数	新設教科等の授業時数	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306		136		102	68	68		102	34	34			10 (+10)	860 (+10)
第2学年	315		175		105	70	70		105	35	35			10 (+10)	920 (+10)
第3学年	245	70	175	90		60	60		105	35	35	45 (-25)		25 (+25)	945
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35	35	45 (-25)		25 (+25)	980
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	35	35	45 (-25)	0 (-35)	60 (+60)	980
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	35	35	45 (-25)	0 (-35)	60 (+60)	980
合 計	1461	365	1011	405	207	358	358	115	597	209	209	180(-100)	0 (-70)	190 (+190)	5665 (+20)

あさぎり町内全小学校 教育課程表（平成30、31年度）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の授業時数	特別活動の授業時数	総合学習等の授業時数	外国語等の授業時数	新設教科等の授業時数	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306		136		102	68	68		102	34	34			10 (+10)	860 (+10)
第2学年	315		175		105	70	70		105	35	35			10 (+10)	920 (+10)
第3学年	245	70	175	90		60	60		105	35	35	35 (-35)		35 (+35)	945
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35	35	35 (-35)		35 (+35)	980
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	35	35	35 (-35)	0 (-35)	70 (+70)	980
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	35	35	35 (-35)	0 (-35)	70 (+70)	980
合 計	1461	365	1011	405	207	358	358	115	597	209	209	140(-140)	0 (-70)	230 (+230)	5665 (+20)

〔研究主題〕

英語を用いて生き生きとコミュニケーションを行う児童の育

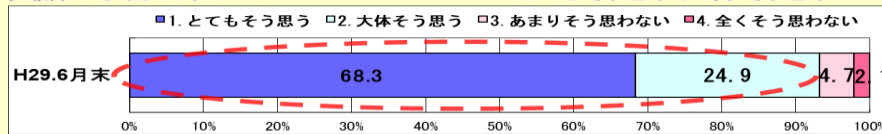
～あさぎり町内小・中学校が連携し、

「Asagiri Enjoy English プログラム」を共通実践する英語教育の試

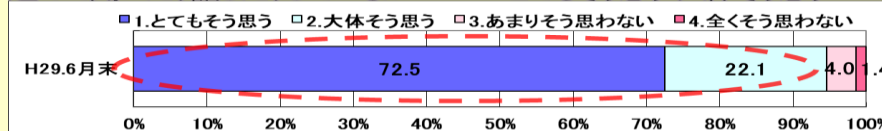
研究開始前のあさぎり町内小学校における英語教育の実態

【児童】（H29. 6月町教委実施）

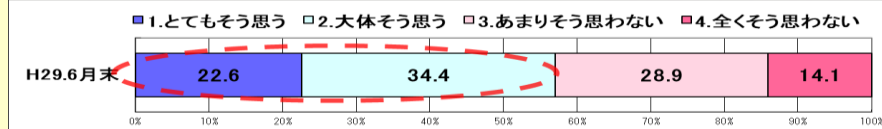
◆ 英語の学習は楽しいか.....とても思う・大体そう思う 93. 2%



◆ 進んで聞いたり話したりしているか.....とても思う・大体そう思う 94. 6%



◆ アルファベットを書くことは簡単か.....とても思う・大体そう思う 57. 0%



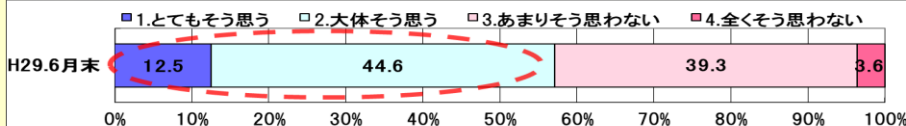
◆ 英語の授業が楽しい児童
93. 2%

◆ 英語で進んで聞く・話す児童
94. 6%

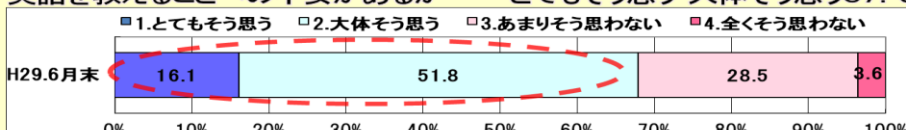
◆ アルファベットを書くことは簡単
57. 0%

【教師】（H29. 6月町教委実施）

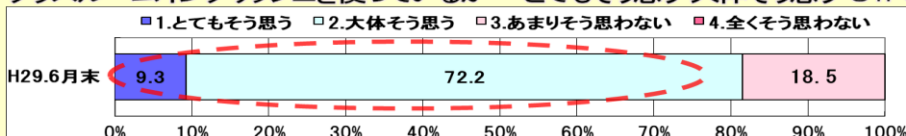
◆ 英語を使うことに抵抗があるか.....とても思う・大体そう思う57. 1%



◆ 英語を教えることへの不安があるか.....とても思う・大体そう思う67. 9%



◆ クラスルームイングリッシュを使っているか...とても思う・大体そう思う 81. 5%



◆ 英語を使う抵抗感
57. 1%

◆ 英語を教える不安感
67. 9%

◆ クラスルームイングリッシュ使用
81. 5%

研究の仮説

英語指導力の向上を図り、AEEプログラムをもとにした授業や英語に触れたり親しんだりする環境づくりを工夫すれば、英語を用いて生き生きとコミュニケーションを行う児童を育成することができるであろう。

研究の視点

視点1…あさぎり町英語教育をつなぐ「A E Eプログラム」による授業づくり

- ア 単元のゴールを見通し、段階的に学ぶ指導計画・学習過程の工夫
- イ 必然性のあるコミュニケーション活動の工夫
- ウ 学習意欲を向上させ、行動化につなげる評価の工夫

視点2…英語に触れ、親しむ環境づくりの工夫

- ア 学習につなげる活動
- イ 学習を生かした活動
- ウ 英語への興味・関心を高める場づくり

視点3…英語指導力向上を図る取組の工夫

- ア あさぎり町教育委員会主催の研修
- イ A E E 部会での共通実践
- ウ あさぎり町指導主事活用事業
- エ 町内小学校全職員による町内共通 Teaching Plan 作成

目指す子どもの姿

低学年

- ・ 英語でのコミュニケーションを楽しむ児童

中学年

- ・ 相手に配慮しながら、英語でのコミュニケーションを進んで行う児童

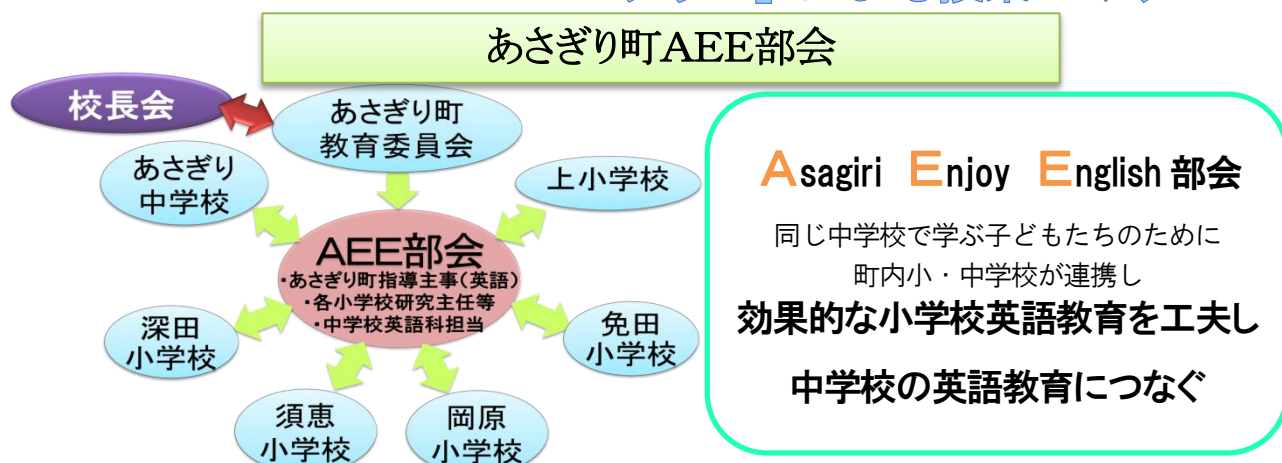
高学年

- ・ 他者に配慮しながら、英語でのコミュニケーションを積極的に行う児童

研究の構想



視点1—あさぎり町英語教育をつなぐ 「AEEプログラム」による授業づくり



あさぎり町英語教育をつなぐ「AEEプログラム」

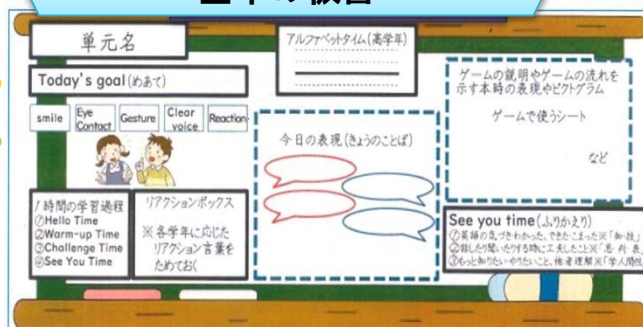
「AEEプログラム」とは・・・英語の授業づくりにおける共通実践事項

授業の流れとALT活用場面				
時間	学習過程	学習内容	各時の主な領域	
①	...	...	...	終末
7分	Hello Time	・挨拶 ・アルファベットタイム ALT: T1 ・コミュニケーションタイム ALT: T2	活動の選択	
10分	Warm-up Time	・本時のめあて ALT: Small Talk ※Small Talk(TT)やW&T(担任単独)を通して ・語彙や基本表現との出会い ・慣れ親しむ活動(まねる・慣れる) ※チャンツや言ったり聞いたりする活動	言語活動 外国語や文化への 気づき・理解 日本語との違いへの 気づき	
23分	Challenge Time	・慣れ親しむ活動(自分の考え) ※やり取りが入るゲーム等 ・ 必然性のあるコミュニケーション活動 ※自分の気持ち・考えが入るやり取り 中間評価 ・読んだり書いたりする活動(高) ※音声で十分慣れ親しんだあと ・Story Time	場面から推測して 意味理解 聞くこと から 話すことへ 気持ちが入った 必然性のある やり取りへ 慣れ親しんだ英語を 推測して読む(高) 慣れ親しんだ英語を 4線に書き写す(高)	
5分	See you Time	・振り返り ※英語への気づき、3観点について視点を示した振り返りカード活用 ・共有 ALT 評価及びコメント ・次への意欲喚起		

～ALT活用場面～



～基本の板書～



～アルファベットタイム

英語活動においてアルファベットの名前とその音、形について体験的に慣れ親しませ、英語科でのアルファベットの名前とその音、書き方の定着を図る。

低学年	☐ あさぎり町版アルファベットの音(低学年用 DVD) ☐ アルファベット体操
中学年	☐ あさぎり町版アルファベットタイムワークシート ☐ 身体でアルファベットの形作り ☐ アルファベットをさがせ！※ぬり絵 ※3年生…大文字、4年生…小文字
高学年	☐ あさぎり町版アルファベットタイムワークシート ・文字の名前と音、書き方 ・音の聞き取りクイズ ・なぞり書き→書き写し

Hello Time

Warm-up Time

Challenge Time

See You Time

Look at Jessica先生！

低学年



あった！これが B!

中学年



できた！Bの形！



Write the 'Z'.

'Z' or 'X'?

高学年



～Small Talk～

既習事項の定着を図るとともに、会話の続け方、学習する表現の自然な会話の中での使われ方を知ることができるようにする。また、「何だろう」「知りたい」という問いを生み出し、学習への意欲を高められるようにする。

Hello Time

Warm-up Time

Challenge Time

See you Time

コミュニケーションタイムで

低学年…担任—ALT ※児童は、続け方や言い換えで困っている担任のお助け隊

中学年…指導者—代表児童 ※他の児童は、続け方や言い換えのお助け隊

高学年…5年生:指導者—児童 ※数回の授業で全員に指名

6年生:①指導者—児童、②(言い換えや続け方のアイデア共有後)児童—児童

本時のめあてまでの導入で

指導者のやり取り後に児童へ投げかけ、本時の学習内容に課題意識をもたせる

本時の学習語句・表現に慣れ親しんだ後に

力試し→もっと言いたいこと→自分や友だちの言いたいことが広がる

※太枠内は、基本毎時間実施。

授業の終わりに

次時の表現を予想→次時の表現にチャレンジ→次時の学習への意欲喚起

Hello Time

Warm-up Time

Challenge Time

See you Time

コミュニケーションタイムで…Small Talk



Hello Time

Warm-up Time

Challenge Time

See you Time

Small Talkで「問い」を生み出し…本時のめあて

What do you like?

I like ice cream.



～語句・表現との出合わせ方の工夫～

新しい語句を導入する際は、視覚的ヒントやジェスチャーなどの非言語、既習の言葉を手がかりに、意味を類推することができるようにする。

Hello
Time
Warm-up
Time
Challenge
Time
See you
Time



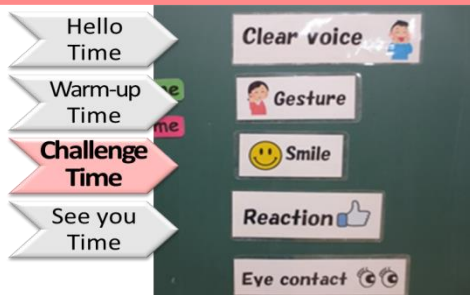
～「読むこと」につなげる文字の提示～

絵の下に文字を入れたカードを活用したり、やり取りの仕方を文字で提示したりすることで、文字への自然な慣れ親しみ（低・中）、語順への気づき（高）を促す。その際、音声に慣れ親しんだ段階で、各学年に応じたタイミングで行うようにする。

	低学年	中学年	高学年
アルファベットタイムにおける文字の取扱い	文字の名前 文字の音	文字の名前 文字の音・形 その文字で 始まる言葉	文字の音 文字の書き方 言葉 なぞり書き 書き写し
提示カードの文字の大きさ	イラスト＞文字 → イラスト＜文字		
表現カード提示のタイミング	Challenge time	Warm-up Time	Warm-up Time

～ゴールデンルール～

主活動の中で必要だと感じたものを選択させることで、主体的な活動を促す。



～中間評価～

児童と話し合いながら、本時のねらいを達成するために必要なことに目を向け、意識付けて活動の質を高める。



活動の質を高め、本時のねらいを達成するために

- 1 児童のよさを共有し
- 2 困ったことの解決法を共有
- 3 改善点の投げかけ

～会話の続け方を学ぶ～

‘reaction’ は、確認・相づち・感想・質問等から活用度が高い言葉を実態に応じて段階的に示し、会話を続けるための言葉を活用する意欲を高めるようにする。

ペラペラやりとり名人	
	(reaction phrase)
確認の開始	
たしかめ	One more time.
くいかえし	Oh!
あいづち	I see.
一言感想	

←低・中・高学年の実態に応じて、活用できる表現を選んで段階的に貼ることができる。

～Any questions?～

‘OK?’ に ‘Any questions?’ を加え、分からないことを確かめられるようにする。

～主体的・対話的・深い学び～

チェック1…「主体的」であるか

- 児童の興味・関心、発達段階に即した課題設定及び場面設定により思考が活発になる。(英語活動)
- 自分の思いや経験を「伝えたい」と思って伝え合う。(英語科)

チェック2…「対話的」であるか

- 児童が考えを広げ深める、他者との協力や対話的な学びの過程を設定することで、新たな発見をし、自分や他者への理解を深め、自身の考え方を広げたり深めたりする。(英語活動)
- 伝え合う目的があり、伝え合う内容が互いにとって未知である。(英語科)

チェック3…「深い学び」であるか

- 単元を通した一連の過程で、自他の思いや考えの理解を深め、課題の解決や考えの更新、振り返りにより、自身の学びや課題を自覚し、そこから得た知識・技能を終末の活動で活用する。(英語活動)
- 「意味」と「場面」、「目的」を結びつけながら言語材料を使用する。(英語科)

～小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブックより

ア 単元のゴールを見通し、段階的に学ぶ指導計画・学習過程の工夫

～単元・授業構成の手順～

- 1 単元のゴール設定
- 2 バックワードデザインによる単元構成
- 3 必然性のあるコミュニケーション活動
- 4 活動の選択と効果的な配列
- 5 町内共通の学習過程
- 6 評価計画及び方法

～段階的に学ぶ学習過程～

Hello Time	挨拶 アルファベットタイム コミュニケーションタイム
Warm-up Time	スモールトーク～本時のめあて提示～ 表現・語句の提示 慣れ親しんだ表現語句を読む【高】 語句や表現に慣れ親しむ活動 ※インプット中心…まねる・慣れる
Challenge Time	必然性のあるコミュニケーション活動 ※アウトプット中心…自分の気持ちを話す 中間評価 慣れ親しんだ文字を読む・書き写す【高】
See you Time	振り返り ※共有・次時への意欲喚起 挨拶

単元構成では、まずゴールを明確化し、そのゴールから逆算して段階的な目標設定を行い、その目標に沿った活動の選択と効果的な配列を行う。その際、言語活動は、「聞くこと」中心の活動から「話すこと」へ段階的に構成する。

授業構成では、文部科学省小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックから〔挨拶→ウォームアップ・導入・復習→中心となる活動→振り返り→挨拶〕の流れを参考に、「Hello Time」「Warm-up Time」「Challenge Time」「See you Time」の4段階の流れとする。その際、1時間の活動においても「聞くこと」からまねる活動、自ら発話する活動へと段階的に組み立てる。

イ 必然性のあるコミュニケーション活動の工夫

Hello Time

Warm-up Time

Challenge Time

See you Time

BじゃなくてD!
ジェスチャーも
使おう!

The D card,
please.

B?







Here you are.

好きな色のシールを集め、それぞれの模様の帽子を作成した。

I like blue.



新教材に例示されている単元のゴールとなる活動を参考にしながら、児童に目的意識をもたせて「聞く必然」「話す必然」のある活動を設定することで、児童の「聞きたい」「話したい」意欲を高める。

ウ 学習意欲を向上させ、行動化につなげる評価の工夫

～振り返りカード[2年生]～

えいごかつどう ふりかえりシート 2年 組 番 ()

今日の学しゅう	楽しかったですか	すずんでえいごを話しましたか	わからないとき どうしましたか	ゴールデンルールをふりかえろう	今日の学しゅうをふりかえろう
あいさつ じょうかい	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
2 あいさつ 今日の気分	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
3 えいごで あそぼつ 体	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
4 えいごで あそぼつ 数字1～12	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
5 すきなものを つたえよう おやつ	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
6 すきなものを つたえよう 色	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
7 ほしいものを つたえよう フルーキー	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
8 ほしいものを つたえよう どうぶつえん	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
9 クイズをしよう 天気	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!
10 クイズをしよう かぞく	とても 楽しかった あんまり	とても 話した あんまり	今日は 聞く (そうそう) 何もしない	アイコンタクト ジェスチャー	わかった! できた! すずんで! つたえるくらう! ★わからなかった!

分らない時にどうしたか、振り返りを重ねる。

「リアクション」を書き加える。

「ジェスチャーをすればえい語がつたわるんだと思いました。」
【主体的に学習に取り組む態度】

児童のつまずきを発見でき、頑張りの軌跡が分かる。

一年間の学習を見通すことができる。

英語活動では、発達段階等に応じて、単元・学期・年間を通した振り返りカードで見通しをもたせ、できたことや学びを蓄積して意欲を高められるようにする。また、低学年では文末例を示し観点に沿った学びを残すことができるように

～I can! シート[5年生]～

① Where is the treasure?
5年2組 名前()

「I can!」プラン

「I can!」できるようにになりたいこと	I can!
① 「身の周りの物」の英語がわかり、言える。	☐
② 位置を表す英語がわかり、言える。	☐
③ 位置をたずねることができる。	☒
④ 「建物」の英語がわかり、言える。	☐
⑤ 道案内の言い方がわかり、言える。	☐
⑥ 相手を目的地まで案内することができる。	☐
⑦ 自分の宝物を分かりやすく伝えるために何か工夫する。 ジェスチャー・わかりにくいところゆっくり話す・ほか	☐
⑧ 友だちの宝物を聞いて、リアクションする。 わかった・質問に答える・自分はどう思うか伝える	☐
⑨ チャンツを言うことができる。	☐

② Before After

③ 「You can!」(Umeda) 先生

～振り返りカード[5年生]～

英語科 振り返りシート Name _____

Unit (7) Where is the treasure?

めあて	振り返り
1 分かったこと・できたこと (聞く・話す・読む・書く)	準備して、言えるようになった。
2 工夫したこと	色々と試み、うまくいった。
3 分からなかったこと	新しい言葉がまだよくわからなかった。
4 次にやってみたいこと	もっと練習したい。
5 コミュニケーション (O) ゴールデンルール (O)	自分の力で、友達や先生に助けをもらって、できなかった。
めあて	道案内ができるようになる。
1 分かったこと・できたこと (聞く・話す・読む・書く)	道案内ができた。
2 工夫したこと	クリアボイスができた。
3 分からなかったこと	全員の答えが言えなかった。
4 次にやってみたいこと	みんなでもそれを生かしたい。
5 コミュニケーション (O) ゴールデンルール (O)	自分の力で、友達や先生に助けをもらって、できなかった。

④

- ①単元のゴールからできるようになりたいことを考え、「できた!」「分かった!」を蓄積する。
- ②単元の始めと終わりの聞き取り内容を比べ、自分の大きな伸びを確認させ意欲につなげる。
- ③児童の自己評価に担任やALTの客観的評価を加え、達成感を高める。
- ④評価の観点に対応する視点に沿った振り返りを行い、学びの足跡を残す。

～観点ごとの評価方法～

観点	内容		方法
知識・技能	英語活動	言語や文化理解 音声の違い等への気づき	発表内容 振り返りカード
		外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ	観察、振り返りカード ‘I can!’ シート
	英語科	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、違いへの気づき、知識理解	発表内容、学習シート 振り返りカード
		読むこと書くことへの慣れ親しみ 5領域によるコミュニケーションで活用できる基礎的な技能	観察、学習シート、振り返りカード ‘I can!’ シート作品、パフォーマンステスト
思考・判断・表現	英語活動	伝え合う力の素地	観察、振り返りカード ‘I can!’ シート
	英語科	目的や場面、状況に応じて聞く・話す 音声で慣れ親しんだ語彙や表現を推測して読んだり、語順を意識して書いたり、自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力	観察※reaction含む、‘I can!’ シート 学習シート※W&T・L/L、振り返りカード、作品、パフォーマンステスト
主体的に学習に取り組む態度	英語活動	言語やその背景にある文化理解 相手に配慮し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度	観察、‘I can!’ シート 振り返りカード、作品
	英語科	外国語の背景にある文化理解 他者に配慮し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度	観察、パフォーマンステスト、作品 振り返りカード、‘I can!’ シート

※ パフォーマンステストは、授業中の活動に組み込んで計画的に行い、座席・ペア・グループ固定、二重円等の形態を選択する。

～パフォーマンステスト形態



前半の座席固定



グループ固定



自由

視点2—英語に触れ、親しむ環境づくりの工夫

ア 学習につなげる活動

イングリッシュタイム（朝自習や帰りの会）
＜各校のメニュー例＞

- ◆全校児童一斉リスニングクイズ（一斉放送）
- ◆ABCsounds
 - ・アルファベット体操（低）
 - ・アルファベットの音あさぎり町版（低・中・高）
 - ・文部科学省デジタル教材
- ◆授業で行ったゲーム
- ◆授業で行う予定のゲーム
- ◆語句・表現チャンツ
- ◆熊本県教育委員会「CAN DO IT! Junior」等活用

※中学年用「アルファベットの音」



イ 学習を生かした活動

英語で朝の会進行
英語で朝の校内放送



保護者による
英語絵本読み聞かせ



英語絵本読み聞かせ



委員会活動
図書委員会



学習発表会で英語劇発表
…校長先生も出演



英語集会（児童集会）
異学年児童と英会話



ウ 英語への興味・関心を高める場づくり

階段掲示



英語絵本コーナー



英語体験コーナー



ALT コーナー



視点3—英語指導力向上を図る取組の工夫

～指導力向上へ 英語学習サポートプラン～

あさぎり町教育委員会主催の研修

2020年度から全面実施となる小学校における英語教育の教科化等へ向けて、夏季休業中に町内小学校教員を対象として、英語力及び授業力の向上を図るために、町教育委員会主催による「英語教育サポート研修会」を行っている。

AEE 部会での共通実践

あさぎり町指導主事（英語）より、町内における英語教育の方向性及びよりよい英語活動・英語科の指導法について情報収集するとともに、各学校における効果的な実践を共有し、吟味し、共通実践内容について確認する。

あさぎり町指導主事活用事業

英語活動・英語科の授業改善のために、全小学校であさぎり町指導主事活用事業による授業研究会を行った。

- ・研究授業事後研修
- ・英語教育の方向性
- ・新教材の効果的な活用法
- ・必然性のあるコミュニケーション活動実践
- ・クラスルームイングリッシュ講習等

町内小学校全職員による 町内共通 Teaching Plan 作成

町内の1年生から6年生までの全授業について Teaching Plan を作成し、それをもとに授業を行っている。

今年度は、新教材導入により全学年の授業について作成し直し、新教材活用の工夫について理解を深めた。

ア あさぎり町教育委員会主催の研修

あさぎり町英語教育サポート研修会

（平成28・29・30年度夏季休業中に実施）

- ◆新学習指導要領について
- ◆必然性のあるコミュニケーション活動について
- ◆新教材活用の工夫について
- ◆クラスルームイングリッシュ 等



英語サポーターとの模擬授業

デジタル教材の活用の工夫や、TTにおけるそれぞれの特性を生かした役割分担の仕方、また、1時間の授業の中で行う効果的な評価方法について理解を深めた。

イ AEE部会での共通実践



ウ あさぎり町指導主事活用事業



エ 町内小学校全職員による町内共通 Teaching Plan 作成

本時の目標

学習する語句

学習する表現

段階的な
学習過程

AEEプログラム共通実践
事項例

5つの小学校の職員と小学校担当ALTで活用するため、お互いの役割分担を明記している。

さらに、ALTの役割について英語で記したり、使用表現を加えたりすることで、打合せ・授業をスムーズに行うことができるようにした。

Teaching Plan

【We Can! 1 : Unit 4 (P26~P33)】 5/8

1 Goal (目標)

- Through activities and the interview game, become familiar with vocabulary and phrases needed to discuss one's household chores.
(ゲームやインタビューを通して、自分の役割を詳しく表す表現に慣れ、伝え合う。)

2 Words (単語)

頻度 (always, usually, sometimes, never)

家庭での役割 (clean my room, wash the dishes, ...)

3 Key Phrases (キーフレーズ)

I (usually)(wash the dishes.) How about you ? / I(never)(wash the dishes.)

4 Procedure (展開)

Process	Students' activities	Teachers' activities		Teaching Aids
		HRT	ALT	
Hello Time (7min)	1 挨拶をする。 2 アルファベットタイムをする。 3 コミュニケーションタイムをする。	・ 挨拶をする。 ・ ワークシートの後、チャンツをする。 ・ 前時のフレーズを使って交流させる。	・ Greetings ・ ALT leads Alphabet Time. ・ Communication Time Communicate with students.	*アルファベットカード
Warm-up Time (10min)	4 Small Talk から、めあてを考える。	A: I usually clean my room. How about you? B: Oh! Nice! I never clean my room. A: Really? B: Yes, but I sometimes wash the dishes. A: Good! Me too.		
Today's Goal: 友達とお手伝いについて尋ね合う				
Challenge Time (23min)	5 Let's Chant	・ 児童と一緒に発音する。	・ Chant together.	*ビジュアルカード
	6 日課を聞き取ろう。 Let's Listen 1	・ 自分達との違いに気付くようにする。	・ Let's Listen 1 Watch and advise students.	
	7 ゲームを通して、言い方に慣れる。 (1) ビンゴゲーム (2) Let's Read and Write (3) Activity	・ しつかりと聞き取れるようにする。 ・ できるだけ多くの児童に尋ねさせる。 ■ 中間評価: よくできていることや困っていることを共有し、活動の質を高める。	・ Bingo Game Demonstration with HRT. ・ Activity Watch and advise students.	(1) ビンゴゲームシート (お手伝いのみ) (2) ワークシート (4-4)
	A: I usually clean my room. How about you? B: Oh! Nice! I never clean my room. A: Really? B: Yes, but I sometimes wash the dishes. A: Good! Me too. ※リアクションを豊富に!		【評価】思考・判断・表現 自分の役割についてのまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉え、慣れ親しんだ語句を使って伝え合っている。(行動観察・ワークシート)	
See you Time (5min)	8 本時の学習を振り返る。(振り返りカードに記入する。)	・ 本時の学習の振り返りとして、カードに記入させる。	・ Reflection Card Watch and encourage students.	*振り返りカード
	9 感想を発表する。	・ 数名の児童に感想を発表させる。 ・ まとめとして、本時の学習の良かったところをほめ、次時への意欲付けとなるようにする。	・ Listen to students' comments. ・ ALT gives comment and HRT helps students understand.	
	10 挨拶をする。	・ 挨拶をする。	・ Closing	

【評価】思考・判断・表現
自分の役割についてのまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉え、慣れ親しんだ語句を使って伝え合っている。(行動観察・ワークシート)

～校内研修でスキルアップ～



- あさぎり町英語教育校内研修計画
- ◆学期毎の英語活動・英語科研究授業
 - ◆スキルアップ研修年間7回程度
 - ◆あさぎり町指導主事活用事業
 - ◆小学校英語教育アドバイザー派遣事業



～指導力向上へ 授業後の「ちょこっとミーティング」



sunnyとfoggyの
ジェスチャーが似てて
混乱したと思います…

ルールが
難しかったですかね…

↓授業後の反省を効率よく行うカード
※話し合う内容が焦点化できる。

Feedback Card (ALT)

日付: Jan. 11th 6th 年 先生

○ (良かったこと・続けてほしいこと 等)
Card game 5min. and Let's talk 2+2(6+2)=6min.

△ (できなかったこと・チェンジしたいこと 等) ^{ALT's good!!}
Alphabet time → Time is over
Went over time.

質問・コメント・リクエスト・他

Today's Class room English. please.
① Alphabet time (暗唱タイム) ④ Which one.
② えいごおき Pencil down, eyes up.
③ A little more time, please.

授業の打合せの時間と同じように、授業後の反省の時間を確保するようにした。

〔内容〕①効果的だったこと ②改善点 ③クラスルームイングリッシュ・英会話スキル

※ALT・あさぎり町英語サポーターとのTT後の職員室までの帰り道、休み時間や放課後

～あさぎり町英会話教室 ボランティア活用～

【児童】力試し

【教師】ねらい達成

【児童】意欲向上

【児童】マンツーマン
スキルアップ

【教師】スキルアップ
英語学習のモデル



～広報「あさぎり」による情報共有、 地域への情報発信～

今ご紹介するのは上小の2年生です。
2年生はどんな勉強をしているのでしょうか

上小を担任するALTは、
ジェシカ先生です。

Unit 3
「好きなものを伝えよう」

Today's lesson
好きなものを伝えよう、
伝えよう

みんなが好きな食べ物がたくさん出てきます。日本語と英語の発音は少し違いますね！ゲームを通して食べ物の単語を練習した後、に、「何が好き？」「○○が好きだよ。」という会話の練習です。

① I like pizza. What do you like? ② What do you like? ③ I like ice cream.

①何が好き？ ②ピザが好き。あなたは何が好き？ ③アイスクリームが好き。

問い合わせ 教育委員会 ☎ 45-7226

単元の後半の授業において、あさぎり町英会話教室の方をゲストティーチャーとして活用した。英語が堪能な地域の方を前に、児童は精一杯の力でコミュニケーションを図っていた。

あさぎり町の広報において、毎月1校ずつ小学校の英語の授業の様子を紹介している。

指導者にとっては、町内で同じ Teaching Plan を活用しているため、各校の実態に応じた工夫点について情報共有ができる。

I 令和元年度 A E E 部会年間計画

【場所：生涯学習センター小会議室 ／ 時間：15:00～16:30】

時期・期日	内 容
第1回部会 令和元年5月17日（金）	・昨年度の振り返り（成果と課題） ・本年度の方向性について（年間計画等）
6月	・アンケート実施・集計 ・英語に慣れ親しむ環境づくりの実践 ・教材の蓄積（Pカード ワークシート）
6月～	・サポート研修会（授業研究会） ・免田小学校 4年1組 - 授業者：黒木靖子 教諭
第2回部会 令和元年8月6日（火） （夏休み中）	・1学期の成果について（アンケート等） ・研究のまとめについて（内容の確認）
第3回部会 令和元年10～11月	・小中連携授業（中学校）
第4回部会 令和元年12月	・2学期の成果について ・特例校3年目のまとめ作成に向けて
12月	・アンケート実施・集計
1月	まとめ作成（成果と課題）
第5回部会 令和2年2月	・まとめ作成（成果と課題）について ※ 3月に冊子配付予定（町内全教職員）

Ⅱ あさぎり町英語教育サポート研修会実践報告

令和元年度あさぎり町英語教育サポート研修会

○期 日 令和元年6月26日(水)

○会 場 あさぎり町立免田小学校

○研究授業 第4学年英語活動 Unit 3 「I like Mondays. (好きな曜日は何かな?)」

1 あさぎり町英語教育をつなぐ「AEE プログラム」による授業づくり

(1) 単元のゴールを見通し、段階的に学ぶ指導計画・学習過程の工夫

ア 単元のゴールの設定

本単元では、「探れ！4の1 ランキング～好きな曜日～」という単元のゴールを設定した。前単元の学習 Unit 2 「Let's play cards. (好きな遊びを伝えよう)」で「探れ！4の1 ランキング～好きな天気と遊び～」という単元のゴールを設定して言語活動を行っており、昼休みの全員遊びの種目決めで活用できると大変意欲的であった。その続きとなる活動とあって、どんなランキングになるかを予想しながらとても楽しみに取り組んだ。

併せて、本単元の第1時間目には、運動会の同じ団としてお世話になった児童に協力してもらい、6年1組の好きな曜日ランキングを示し、動画で問いかけてもらった。(図1) このことで、好きな曜日を探る言語活動への興味を高め、さらに、好きな曜日と理由についてのやり取りを堂々行う6年生みたいに話せるようになりたいと意欲的に学習を進めることができた。

また、今後の学習を見通して「曜日の英語での言い方を知りたい。」「好きな曜日の聞き方を知りたい。」と、それぞれの児童ができるようになりたいことや知りたいことへのイメージを膨らませ、主体的に学習に取り組んだ。

指導計画は、ゴールとなる活動から逆算して、各時に段階的な目標設定を行い、その目標に沿った活動や配列を工夫し、無理なく慣れ親しむことができるようにした。

1時間の指導過程は、文部科学省小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックから[挨拶→ウォームアップ・導入・復習→中心となる活動→振り返り→挨拶]の流れを参考に、町内統一の「Hello Time」「Warm-up Time」「Challenge Time」「See you Time」4段階の流れとした。その際、「聞くこと」からまねる活動、自ら発話する活動へと段階的に組み立て、チャンツやゲーム的要素を入れて楽しみながら言語材料に慣れ(図2)、「Challenge Time」で自信を持って学習表現を活用できるようにした。



図1：6年1組の好きな曜日ランキング



図2：指残しゲーム

「Hello Time」で行うコミュニケーションタイムでは、既習表現を活用した Small Talk や本時の表現を使った Small Talk を行って、児童にも問いかけることで学習内容に関心をもたせたり、課題意識をもたせたりして、主体的に学ぶことができるようにした。(図3)

Hello Time Warm-up Time	コミュニケーションタイムで 低学年…担任－ALT ※児童は、続け方や言い換えで困っている担任のお助け隊 中学年…指導者－代表児童 ※他の児童は、続け方や言い換えのお助け隊 高学年…5年生：指導者－児童 ※数回の授業で全員に指名 6年生：①指導者－児童、②(言い換えや続け方のアイデア共有後)児童－児童 本時のめあてまでの導入で 指導者のやり取り後に児童へ投げかけ、本時の学習内容に課題意識をもたせる
---------------------------------------	---

図3：スモールトーク活用場面例

イ 発達段階に応じて文字に親しむアルファベットタイム

あさぎり町では、授業の始めに5分間のアルファベットタイムを設定し、1年生から、「アルファベット体操」「身体で文字作り」(図4)「あさぎり町教育委員会作成の学習シート」等、発達段階に応じて文字に親しんでいる。

本時では、「j」の形と名前、音を聞いて、jで始まる言葉探しでは、雨天時の遊びで知った「ジェンガ」や「ジェット機」等の言葉を挙げていた。



図4：身体文字作り

ウ 会話を続けるキーワード「ぺらぺら名人」の活用

英語の授業では、担任やALT、友だちの話を聞いたときに使える‘reaction’について、低・中・高学年の発達段階やその時の授業内容に応じて提示できるように「ぺらぺら名人」を活用している。(図5) 会話を続けるためのキーワードが集められており、「確かめ」「相づち」「感想」「質問」と各段階に分けて掲示できるようにになっている。この4段階の「ぺらぺら名人」を活用することで、会話を続けるための言葉を活用する意欲を高めたり、対話を深めたりすることができた。

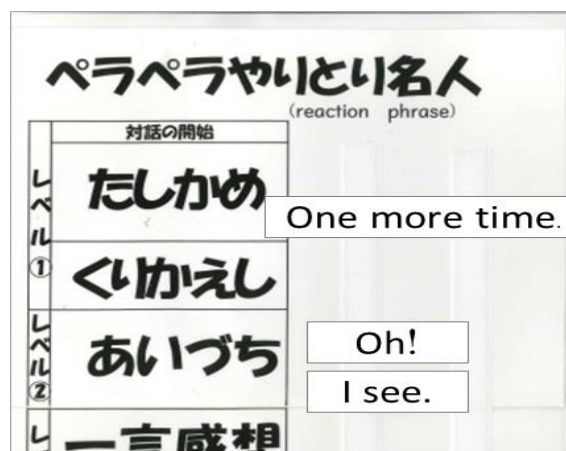


図5：イングリッシュコーナー

(2) 必然性のあるコミュニケーション活動の工夫

ア 前時までのゴールや6年1組のランキングビデオの活用

前単元「好きな遊びランキング」に続いての本単元「好きな曜日ランキング」の結果を予想せたり、6年1組からの「好きな曜日ランキング」を紹介して4年1組のランキング作りを提案するビデオを見せたりして、各時に単元のゴールと関連づけた活動を取り入れた。そのことで、児童の「友だちの好きな曜日を聞きたい。」「自分の好きな曜日を伝えたい。」という気持ちを高めることができた。

イ 好きな曜日クイズ

本単元2／3時間目の好きな曜日クイズ（あさぎり町英語サポート研修会公開授業）では、それぞれの好きな曜日について「聞きたい。」「話したい。」という意欲が高まるように、児童それぞれの趣味や好みに焦点を当て、相互理解が深められることへの期待感を高められるようにした。（図6）



図6：好きな曜日クイズ

ウ 4年1組及び保護者ランキング作成のための調査活動

本単元3／3時間目は、授業参観日に設定し、4年1組の好きな曜日ランキングを作って保護者に知らせようと意欲的にコミュニケーション活動を行った。さらに、最後は、保護者の方々のランキングを作ろうと、全ての保護者の好みを聞くために活発なコミュニケーション活動を行った。（図7）



図7：保護者のランキング作りゲーム

子どもたちは、友だちのお父さんやお母さんにも積極的に英語で話しかけていき、保護者の方も「久しぶりの英語で必死です!」と子どもたちに答え方がまちがっていないか尋ねながらも笑顔で答えてくださっていた。インタビューから、ほとんどの保護者の方々は、休日前か休日が好きだという結果に、親子で笑い合い楽しい時間となった。

(3) 学習意欲を向上させ、行動化につなげる評価の工夫

ア 活動の質を高める中間評価の工夫

主となる言語活動では、中間評価を行い（図8）、上手にコミュニケーション活動を行っている児童を紹介してそのよさを共有したり、活動の中で困ったことを尋ねてその解決法を探ったり、また、指導者からの改善点を伝えたりすることで、その後の活動の質を高められるようにした。その際、ねらいを達成するために必要なことについて、児童と対話しながら焦点化するようにした。

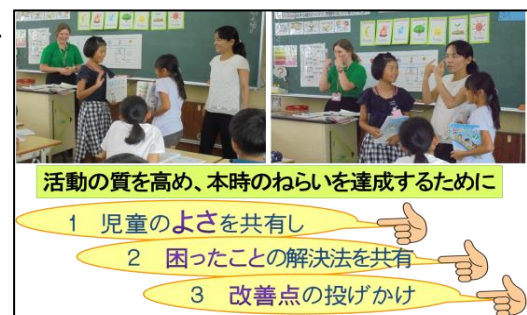


図8：中間評価の様子とその目的

イ Good Job!カードの活用

「聞くこと」「話すこと（やり取り）」の評価は、単元後半の授業での言語活動をパフォーマンス評価の場と捉え、ねらいを十分に達成している児童にはその場でカードを渡し、「I can!シート（各単元ごとの自己評価シート）」に貼って蓄積していけるようにした。その際は、一部の児童の席を固定してローテーションしながらの交流やグループごとの交流を設定して、ALTとHRTが対極に立って観察することで児童の様子を効率よく見とることができるようにした。「Good Job!カード」は、子どもたちの意欲を高めるのに有効で、他教科での活用も有効であった。（図9）

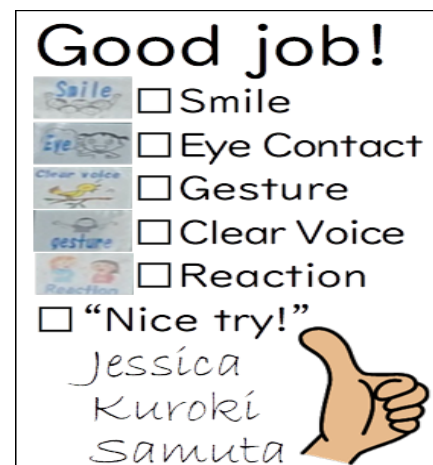


図9：Good Job!カード

ウ ALTによる評価を児童に伝える場の設定

授業の最後に ALT からのコメントの時間を設定し、ALT の目線で児童のよかったところを伝えたり、頑張っていた児童を紹介したりしてもらった。(図 10) 毎時間、ALT の英語の中から分かる言葉を探りながら、誉められていることが分かったと嬉しそうな笑顔を見せた。

また、これまでの英語に関する実態調査や毎時間の振り返りを行う「I can!シート〔中学年版〕」から、英語を苦手と感じている児童や楽しむことができないでいる児童については、授業前に ALT に伝えて意識して関わってもらうようにした。ALT と関わることは、英語の楽しさを味わう一番効果的な方法であり、集中的に関わってもらった児童は、確実に英語を楽しいと答えることができるようになった。



図 10：各学習過程における ALT 活用

エ I can!シート〔中学年版〕の活用

あさぎり町では、児童自身による「できた!」「わかった!」を集めて達成感を高め、自信をもって学習できるように、毎時間「I can!シート」を使って自己評価を行っている。(図 11)

「I can!シート〔中学年版〕」では、単元の最初に提示された単元のゴールとなる活動を行うために、できるようになりたいことややってみてみたいことを尋ね、そこで出た意見を提示したり自分で自由に書き込める「I can!プラン」や「振り返り」、さらに授業中にももらった「Good Job!カード」を貼っていく枠を設けた。「I can!プラン」の丸印を書き込む枠には、授業や朝自習のイングリッシュタイム(火曜日)で自分で「できた!」と思った時に書き込んでいくので、いつの間にか多くの○が付いている児童もいた。

この時、「Good Job!カード」がない児童については、活動の様子を思い出しながら必要に応じて貼るようにした。もらった児童は、嬉しそうに報告に来た。

図 11：I can!シート〔中学年版〕

「振り返り」では、新しい評価の3観点に関わる視点で振り返りを書くことができるように項目を整理した。特に「進んで話していたか」「英語が分からなかった時どうしたか」「さらに知りたいことややってみてみたいこと」の項目では、その時間の頑張りのや自分の今を分析してもっとよくなるために必要なことを考えたりやってみたりしたことが残されており、「思考・判断・表現」や「主体的に学習する態度」を見取っていく有効な資料になると考えている。

2 英語に触れ、親しむ環境作りの工夫

(1) 学習につなげる「イングリッシュタイム（火曜日朝自習）」の工夫

イングリッシュタイムでは、それぞれの単元で楽しんだ言語活動について「またやりたい。」「もう1回やりたい。」と言うものを取りあげて楽しむ時間を設定した。(図12、13、14)

他の単元になるが、「アルファベットで文字遊びをしよう」では、児童が「アルファベットランド」に設定されたゲームをリクエストすることが多く、何度も楽しみながらアルファベットの文字に慣れ親しむことができた。特に、自分が欲しいアルファベットを集めるゲームについては、何度もリクエストして、好きなキャラクターや物の名前になるように文字を集めてワークシートに貼っていき、アルファベットの形と名前に慣れ親しむことができた。その他、毎日の朝の放送や金曜日の給食時間等で英語に触れる機会を設定している。



図12：パフェ作り



図13：文房具セット作り



図14：文房具セットプレゼント

(2) 学習を生かし、聞く意欲を高める「リスニングクイズ」の工夫

リスニングクイズは、火曜日の朝に設定されているイングリッシュタイムにおける全校統一の取組で、低学年の年間計画から各月のテーマになる学習表現を選択し、質問の答えの数で各学年の発達段階の差に対応するように考えられたものである。クイズの内容は、1問目は担当からALT、2問目はALTから担当学年の1組児童代表、3問目はALTから2組児童代表へとやり取りが行われる。これまでに聞いたことのある表現が使われているので、児童は、ALTとその日の代表児童の答えを毎回楽しみに聞いていた。毎回だれの発表なのかもとても楽しみにしており、4年1組の代表を決めるジャンケンではほぼ全員が参加していた。(図15、16、17)



図15：リスニングクイズ準備



図16：放送準備中



図17：拍手で迎えられた代表

(3) 英語への興味・関心を高めるイングリッシュコーナー

イングリッシュコーナーは、本校の渡り廊下に設置されており、オリンピックのプログラムの英語での名前やアンサーブザーを使った英語クイズ、アルファベットクイズなどのコーナーが定期的に設置されてきた。(図18)

雨の日や休み時間には、お目当てのコーナーの前で掲示物を見たり、クイズを体験したりする児童が見られた。



図18：イングリッシュコーナー

3 英語教育サポート研修会事後研究会（令和元年6月26日）

(1) 成果（○）及び課題（▲）

- 単元のゴールを設定していたことで学習意欲が高められた。
- 「Warm-up Time」において、卓球やテニスでスピードを変えながら単語の練習をすることで、とても意欲的に活動した。
- 例示→チャンツ→指残しゲーム→クイズの流れが、聞いて真似て試すことができるものであった。
- 三人で指さしをしたことで、少し理解が難しくてもほとんどできており、楽しそうにやっていた。
- デモンストレーションと主活動の掲示が分かりやすく、どんな活動をするか理解できていた。
- ペア・グループの活動が数多く設定されており、対話につながっていた。
- 中間評価を行ったことで、めあてに向かってその後の活動の質が高められていた。
- アルファベットタイムやデモンストレーション、児童の頑張りやよかったことの発表など、ALTの発音を聞かせる場の設定がなされており、英語をじっくり聴くことができた。
- 支援学級の子どもたちも、支援学級担任の助言や補助発問を通して曜日クイズに参加できていた。
- 児童の好きな遊びや今まで学習したことが掲示してあり、それを使って学習できていた。
- 間違えても大丈夫だよという温かい雰囲気があった。
- ▲活動内容の見える化があるといい。
- ▲Wednesday→水曜日→水（絵）とすぐに出てこなかった。少しだけ日本語を補うとよい。
- ▲曜日クイズの時のPair Talkで声の大きさにばらつきがあった。
- ▲指残しゲームで“ What day is it? ” “ It’s（曜日）. ”の表現を練習していたが、主活動では“I like（曜日）.”で答えている児童もいた。慣れ親しませることの難しさを感じた。

(2) 参加者感想

- ◇デモンストレーションで子どもたちの気づきを出し生かされていて大変勉強になりました。すべての活動が主活動につながっていて、今後の授業づくり実践に生かしていきたいと思います。
- ◇黒木先生の進め方、英語での指示、コミュニケーションの場の工夫、何よりもほめ方（英語で）、smileにびっくりしました。早速先生方にお伝えして、私も実践します。
- ◇small talkの子供へのふり方、単元のゴールづくり、授業構想の作り方、学びました。学校で紹介します。ありがとうございました。
- ◇初めて他の人が行う英語の授業を見ることができて、とてもよかった。教師としての英語力のスキル、児童の意欲を高めることでしか習得が難しいと感じた。今日は、掲示、名人などのいろいろな工夫を見てとてもよかった。参加できとてもよかったです。
- ◇先生の緻密な授業の組み立て方、また、子どもを目標に向かって引っ張っていくうまさがとても参考になりました。ありがとうございました。
- ◇全体的に先生が、笑顔で誉めたり見守ったりして、子どもたちが安心して授業に参加できていました。学習過程がしっかりと仕組みれて、単元のゴール、本時の目標に迫る活動がなされていたと思います。大変お疲れ様でした。
- ◇本日はお忙しい中に授業を公開していただきありがとうございました。中学校でも参考にさせていただきます。
- ◇系統は学習してきた流れであり、「定着している」わけではないこと。また、そのために warm-up time で十分に慣れ親しませ、日常的に使う教材を無理なく使いながら challenge time にもっていく“王道”として、これからの道しるべとします。ありがとうございました。

Ⅲ あさぎり町A E E部会小中連携授業実践報告

令和元年度A E E部会小中連携授業

○期 日 令和元年12月11日(水)

○会 場 あさぎり町立あさぎり中学校

○研究授業 第3学年4組 授業者 黒木亜里沙教諭

1 授業づくり

(1) 基礎・基本の徹底

ア 基本文法の復習

11月の第二回共通テストも終わり、受験を控えた時期の中学3年生に必要な文法の復習を、テンポよくスライドを使って復習をされていた。(図1) 視覚的にも分かりやすく、学習過程の中で繰り返し位置付けてあることが分かる。



図1 スライドを用いた復習

イ 本時に関わる単語の獲得

受験に必要なまとまった量の英文を読むために欠かせないのが語彙力である。本時では23の新出単語があり、安心して読むことと本時の目標である「本文の内容を理解して、英語の問題に答えることができる」を達成することをねらいとして、「たんれん」の時間を設け(図2)、英単語の正確な発音と意味理解の時間を確保してあった。

1	card	カード			カード	□□□□
2	receive	リシーヴ			…を受け取る	□□□□
3	threw	スルー			[throwの過去形]	□□□□
4	throw	スロウ			…を投げる	□□□□
5	pick	ピック			…をつみ取る	□□□□
6	advertisement	アドヴァタイズメント			広告、宣伝	□□□□
7	dentist	デンティスト			歯医者、歯科医	□□□□
8	thrown	スロウン			[throwの過去分詞]	□□□□
9	mysterious	ミステリアス (たふて)			ふしぎな、不可解な	□□□□
10	adventure	アドベンチャー			冒険	□□□□
11	Rudolf	ルドルフ			ルドルフ(男性名)	□□□□
12	throw ... away	スロウ アウェイ			…を投げ捨てる	□□□□

図2 「たんれん」ワークシートの一部分

1回目は普通の速さで教師と一緒に発音、2回目は速さを上げて教師と一緒に発音、3回目は3分間自分の速さで生徒がそれぞれ読む、4回目はペアで問題を出し合って読む(図3)、以上の活動を終えた生徒から書いて練習するなどの段階的な活動を繰り返し行っていく工夫が見られた。そのことにより、生徒の活動意欲が高まり、一連の活動を主体的に行う姿が見られた。



図3 相互に問題を出し合う生徒

(2) 入試出題傾向に沿った授業の工夫

ア 自作問題

共通テストのパターンと同じように作成された問題は、①内容を理解して正解を選択する問題、②Yes/No で解答する筆記問題、全ての単語の意味が分からなくても、前後の文や問題文から類推できる筆記問題等で構成されていた。(図4) 生徒の理解の状況に合わせて難易度の高い問題も用意されていた。

類推する力を育てるため、分からない単語の意味を全て教えることはせず、英語の質問文で使われている単語の並びと似ている部分を本文から探すように声をかけることで、解決を促していた。

イ 重要語句や文法の確認

最後に、読み取りのポイントとなる部分を解説し、ワークシートに書き込ませることで、もう一度基礎基本を確認していた。さらに、前置詞など理解の難しいものは、ジェスチャーを伴いながら声や動きを付けることで分かりやすく説明していた。

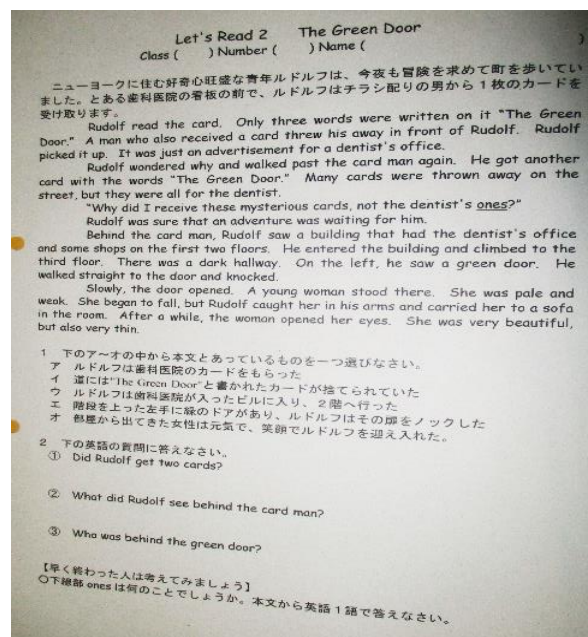


図4 自作問題

2 A E E小中連携授業の事後研究会 (令和元年12月11日)

(1) 成果 (○) 及び課題 (▲)

- 入試前の生徒の課題を明確に把握し、その課題を子ども達と共有しながら、単元構成と指導計画を工夫されていた。見通しと必要感を持って、be+過去分詞の復習に取り組むことができた。
- 小学校のアルファベットタイムとコミュニケーションタイムで既習表現の定着を図るのと同様に、中学校でも話したい意欲を高める題材で既習事項の復習や新出単語の練習の時間が確保されていた。9年間を通じて、学習内容の定着が確実に積み上げられていくと感じた。
- 授業の中で読解力、単語の定着等を粘り強く効果的に指導されていたためになった。
- 授業の導入で、本時で使われる表現や文法をパワーポイントを使い、短い時間で繰り返し練習されていたので、問題を解く際に効果的だった。
- 本文の学習をする前に新出単語を全体、ペアで練習していて、苦手な子ども達も授業に参加されるような流れになっていたと感じた。単語を何度も発音させて耳から慣れさせ、覚えさせるやり方は、小学校での外国語活動や英語の授業とも似ていると思った。
- 生徒の基礎基本をボトムアップする「たんれん」やペアでの学習は小学校でも取り入れたい。
- 全体の意味理解に必要な文章に焦点を当てて読み進める経験を積み重ね、全てを理解できなくてもわかることや前後のやり取り等から類推する力を高められていた。
- 全国学力・学習状況調査の出題形式を意識された発問や教科書を活用して共通テストの出題形式に対応したQ&Aを工夫されていることで、求められている力を高めていけると感じた。小学校でも、中学校で求められる力を知った上で実践を進めていくことは大切だと感じた。
- 受験を意識された内容の授業づくりが、大変参考になった。教科書の内容から実際の入試問題に合わせたワークシートを作成されていたので、私自身も今以上に県学力調査や学力検査を意識し

た授業づくりをしていく必要があると感じた。

○授業の中で、新出単語と既習単語の両方の語彙を定着できるシートが工夫され、授業の中で活用して練習する時間を確保されていたことから、どの生徒も英語に慣れ親しむことができた。

○授業がテンポよく進み、生徒が楽しんでいる様子が伝わってきた。必要に応じた個別指導で苦手な生徒も安心して学ぶことができると感じた。

○子ども達が飽きずに英語に取り組めるように、集中できない子ども達や苦手な子ども達に個別に声を掛けられたり、冗談を言って子ども達を和ませたりされていたので、どの子ども達も授業に参加できていたと思った。

○子ども達に今何が必要なのかを教師がしっかり考え、計画的に指導していくことの大切さを改めて感じた授業だった。

○文法の押さえ方、とてもわかりやすかった。

○授業での先生のトーンの作り方、リズムがあって、充実感のある授業だった。

▲日常的に読み取りの技を示されていることはとても効果的だと思う。今後、各学年に応じた読み取り名人の技をまとめて、小学校で行っている共通板書例のように常時掲示すると、いつも振り返ることができ力がつくと思う。

▲各学年の段階とそれぞれの領域の効果的な指導法について、担当教諭間で共有し、共通実践できるとさらに力を伸ばしていけると思う。

(2) 参加者感想

◇現中学1年生は、初見の英単語でもなんとか読める力がついているという実態を知り、あさぎり町全体で、授業初めのアルファベットタイムは大切に、必ず行っていく必要があると感じた。

◇アルファベットの音の学習を経験している生徒の成果として、新出単語を読む力がついてくると教えていただき、各学年の段階に応じてアルファベットタイムを実施することの意義を明確にもつことができた。

◇フォニックスの重要性について、話をさせていただきましたので、学校でも引き続き共通実践で取り組んでいくことを確認しました。

◇アルファベットの音の学習を経験している生徒の成果として、新出単語を読む力がついてくると教えていただき、各学年の段階に応じてアルファベットタイムを実施することの意義を明確にもつことができた。

◇中学3年生の長文読解では、全ての単語の意味が分からなくても、前後の文や問題文と似ている個所を探せば解ける。同じように、小学校でも全てを訳しながら授業を進めるのではなく、ジェスチャーや活動から類推させる習慣をつけたい。

◇これらが続ける続けないでは、中学校に上がったときに大きな差となってくる。年度初めの校内研修などで「AEEプログラム」による授業の流れを確認し、研究を継続させていくことが町全体の英語力向上につながると感じた。

IV 評価の試行と今後の方向性

1 あさぎり町内小学校における評価

本町では「AEE プログラム」の共通実践について、3年間にわたって実践・研究を積み重ねてきた。まず実践し、積み重ね、充実・発展につなぐために評価活動も重点事項の一つとして取り組んできた。

(1) 「I CAN シート」の活用について

単元のゴールを子どもたちに提示し、そのためにどんなことを学ぶかを「I CAN シート」で提示をし見通しを持たせるようにしている。(図1) 本シートでは、「キラ先生に日本のことを紹介」するために、「日本の行事や祭りの名前を言ったりできる」という様に単元のゴールから、学習計画を提示することができる。

単元の最後の学習では、「I CAN シート」を活用してできるようになったことを○で記入し、これまでの学びを振り返ることができるようにしている。

また、単元に関わるスモールトークを聞いて、導入時と単元最後でどれだけ聞き取れたかをメモすることを通して、子ども自身の成長が分かるようにしている。さらにこのシートを残すことで、評価への活用もできるようにしている。

Figure 1 is a worksheet titled "Welcome to Japan!" for 6th graders. The main goal is to introduce Japan to a teacher named Kira. It lists 8 goals for students to achieve, such as naming Japanese events, festivals, games, culture, food, and local specialties. A table shows progress with circles for "I can!", "I can! but...", and "I can't!". Below, a "Before" and "After" section shows improved listening skills with handwritten notes.

図1：活用した「I CAN シート」

(2) 「振り返りシート」の活用について

このシートは毎時間の授業の終末に利用する。本時のめあてに対して、新しい評価の3観点の内容に合わせて振り返ることができるように、①わかったこと・できたこと(聞く・話す・読む・書く)、②工夫したこと、③分からなかったこと、④次にやってみたいこと等の視点を設けている。また、1時間の活動や担任の意図に応じて、記入の視点を選択して書けるように配慮している。(図2)

各単元ごとにこのシートを活用することで、様々な視点や観点での振り返りができ、子ども自身の学びの成長や達成感を残すことができる。

さらに、教師の授業改善にも活用することができた。

Figure 2 is a worksheet titled "Unit (5) What do you want to watch?". It lists 5 goals for students to watch and describe. The goals include watching a video, describing a scene, and using a specific phrase. A table shows progress with circles for "I can!", "I can! but...", and "I can't!". Below, a "Before" and "After" section shows improved listening skills with handwritten notes.

図2：活用した「ふりかえりシート」

2 高学年英語科における評価（試行）

(1) 第6学年 Unit 7 「My Best Memory 小学校生活・思い出」での評価

本単元では、「話す（やりとり）」「話す（発表）」「書くこと」について重点的に評価を試行した。

8時間授業の中、特に発表場面（8時間目）の評価について以下に述べる。（図3）

6年（2月 日）		話す・発表(UNIT-7 Lesson8 小学校の思い出スピーチをしよう)											
		主体的に学習に取り組む態度 他者への配慮 (ゴールデンルール) う なすぎ・イラストの利用				思考・判断・表現 意味が分かっている・伝え 合っている・話している・ 書いている				知識・技能等 分かる・理解する・ できる			
第8時 で評価		アイコンタクト	ジェスチャー	リアボイス	聞く態度 (リアクション)	HRTとのやりとり	ALTとのやりとり			単語の意味が分かっている	文の意味が分かっている	スラスラと	
A規準													
1	A児	○	◎	○	○					○	○	○	
2	B児	◎	◎	◎	◎		◎			◎	◎	◎	
3	C児	◎	○	◎	◎	○						○	
4	D児	◎	○	◎	△	○						△	
5	E児	△	○	△	○		○					△	

図3 評価の具体的な場面での活用の様子

ア 主体的に学習へ取り組む態度についての評価

町内統一のゴールデンルール（アイコンタクト・クリアボイス・スマイル・ジェスチャー・リアクション）の中から「他者に配慮しながら、思い出の学校行事について伝え合おうとする」態度について、本時の重点事項を選び評価した。単元のゴールに向けて作成した自分のアルバムを実物投影機でモニターに映し、英文やイラストを活用することも評価の対象とした。（図4）



図4 思い出発表の様子

イ 思考・判断・表現についての評価

「学校行事・思い出について伝え合う」についての評価は、「話す（発表）」中には判断場面を設けることが難しく、それまでのコミュニケーションタイムや、アクティビティ（本活動）の中で、HRTやALTとのやり取りを通して評価した。その際、これまで学習した語句や表現を無理なく使いながら、自然なやりとりができるか等で評価を行った。

ウ 知識・技能についての評価

「学校行事・思い出について聞いたり言ったりすることができる」についての評価は、これまで十分慣れ親しんだ上で書いた英文（アルバム）をもとに、語句の発音や語順などを正しく言えるかを評価した。

言い間違えることもあるが、発音や語順のちがいに気付いて言い直すこともまた技能として身につけているものとして扱った。より慣れ親しんでいる児童ほど、書きためたアルバムを見ることなく、スムーズに発表することができた。

(2) 試行の感想

評価規準のうち、領域をそれぞれ1時間2つずつ選んで評価したとして、それぞれに3つの観点があり、評価がとても複雑になってしまう。その中でも、さらに「A評価をどのように評価するか」を来年度完全実施に向け試行してみたが、「思考・判断・表現」のA評価をどの基準とするかが困難であった。

「伝え合う」際に、何を基準に見取ればよいかをこの単元以外でも試行してみたところ、「教師と児童とのやりとり」「児童と児童のやりとり」のどちらかで見取っていく必要があると感じる。既習事項から自分で伝えたいけれど分からないことを導き出すことや、やり取りで臨機応変に答えを見つけて伝えるなど、「言う」だけの発表では見られない姿を見取る必要性を感じた。

(3) あさぎり町 英語科 評価規準 第6学年 Unit 7 「小学校生活・思い出」 ※評価参考資料

単元名 中心領域	各観点の評価規準	評価基準	領域 ●: 中心領域 ●※: 記録に残す評価
	各単元の評価の観点※単元目標より文末を変更。 赤書き…単元の指導内容 青書き…領域別内容の段階	・毎時間評価しない→指導と評価の一体化 ・授業における評価基準・・・領域別目標とリンクさせる。 ●文末確認後、変更する。	聞話話読書 くすすむ や発く
7小学校生活・思い出 ②話す・や/イ ②話す・発/イ ④書くこと/イ ・各単元に関連する領域別目標にあるものを●で示した。 ・評価基準の3観点5領域分の選び方と配列の仕方 ・3観点に合う文末知/～分かる、理解する技/～できる 思/～概要を捉えている ～意味が分かっている ～伝え合っている ～話している ～書いている 主/～聞こうとしている ～分かろうとしている ～伝え合おうとしている ～話そうとしている ～書き写そう(書こう)としている ・1時間に2つ →指導者が計画的に選ぶ	【知識・技能】 ・学校行事について、聞いたり言ったりすることができる。 【思考・判断・表現】 ・学校行事について伝え合う ・例を参考に語順を意識しながら書く。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深めようとする。 ・他者に配慮しながら、思い出の学校行事について伝え合おうとする。	①主・外国の学校行事に関心をもち、類似点や相違点を見つけようとしている。【観察(パ)・振り返りカード・発表】 知・学校行事についての話を聞いて内容が分かる。 0 ②知・思い出に残る学校行事について尋ねたり、答えたりできる。 0 思・思い出に残る学校行事を選び、例を参考に語順を意識して書き写している。(1回目) ③知・(思い出に残る学校行事を出し合い)学校行事で感じる気持ちを表す英語を知り、感想を伝えたり、聞いたりできる。 思い出に残る学校行事を選び、例を参考に語順を意識して書き写している。(2回目※最終決定) ● ④知・(外国での学校行事の話を聞いて内容を理解し)運動会について感想などを伝えたり、聞いたりできる。 ●※ 思・運動会の感想(思い出に残る行事①)について、例文を参考に語順を意識して書き写している。 ⑤思・(外国での学校行事の話を聞いて内容を理解し)町探検について感想などを伝え合っている。 ● 町探検(思い出に残る行事②)について、例文を参考に語順を意識して書き写している。 ⑥思・(外国での学校行事の話を聞いて内容を理解し)宿泊研修について感想などを伝え合っている。 ●※ 宿泊研修(思い出に残る行事③)について、例文を参考に語順を意識して書き写している。 ⑦思・小学校の思い出について、写してきた英語を推測して読んだり、例文を参考に書いたりしている。 ※発表前の練習や教え合いの時間を想定して ⑧主・6年間で一番に残っている思い出と理由について、他者に配慮しながらわかりやすく伝えようとしたり、よく聞こうとしたりしている。 ●※ 0	

3 今後の評価の方向性

高学年の通知表について（観点別の内容）

観点	内容
知識・技能	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語のはたらきなどについて、日本語と外国語の違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力	コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



具体的な通知表の記入について

観点	より具体的な内容（評価の場面や内容）	評価	評定
知識・技能	聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 評価の場面：授業中のやり取り・発表の観察 <u>ペーパーテスト（アルファベットのチェック）</u> <u>パフォーマンステスト</u> 評価内容：（× ア 音声） イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文末及び文構造	A	3
思考力・判断力・表現力	自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。 【聞くこと】聞いてその概要を捉えている。 【読むこと】基本的な表現を読んで、意味が分かっている。 【やり取り】自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 【発表】自分の考えや気持ちなどを話している。 【書くこと】自分のことや身近で簡単な事柄について書いたりしている。 評価の場面：授業中のやり取り・発表の観察 発表用シート等のチェック 「I CAN」シート ※ Practice の場面では評価できない。 （思考が働いていない。）	A	

主体的に学習に取り組む態度	外国語文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 【聞くこと】英語で話されたものを聞こうとしている。 【読むこと】英語で書かれたものの意味を分かろうとしている。 【やり取り】英語を用いて伝え合おうとしている。 【発表】英語を用いて話そうとしている。 【書くこと】英語を用いて書き写したり書いたりしようとしている。 評価の場面：授業中のやり取り・発表の観察 発表用シート等のチェック 「I CAN」シート 振り返りシート	B	
---------------	---	---	--

評価の実際

① 単元ごとの評価規準を作成

- ア 国立教育政策研究所作成の例示を活用
- イ 教科書指導書の評価規準例を活用
- ウ 球磨地域で作成された評価規準例を活用

② ペーパーテストの実施について

- ア 「ペーパークイズ」（「参考資料」文部科学省）の活用による評価
- イ 「ワークシート」やテキストへの書き込みによる評価
- ウ 作品（ポスターなど）による評価

③ パフォーマンステストの実施について

- ア 授業中の見取りによる評価
- イ 学期に1回の実施（複数の単元の後に言語活動を総合した内容）
- ウ 「パフォーマンスクイズ」（「参考資料」文部科学省）の活用による評価

評価の仕方

① 授業中のやり取り・発表の観察

- ア コミュニケーションの5ポイントを守っているか。
- イ 他者を意識した発表であるか。
（資料を見たり、指し示したり、聞く人をバランスよく見たりして発表
分かりやすさ：はっきりと聞こえる声の大きさ、と話すスピード等）

② アルファベットのチェック

- ア ペーパーテスト（確認チェック）を実施する。
（5・6年それぞれで大文字、小文字）

③ パフォーマンステスト

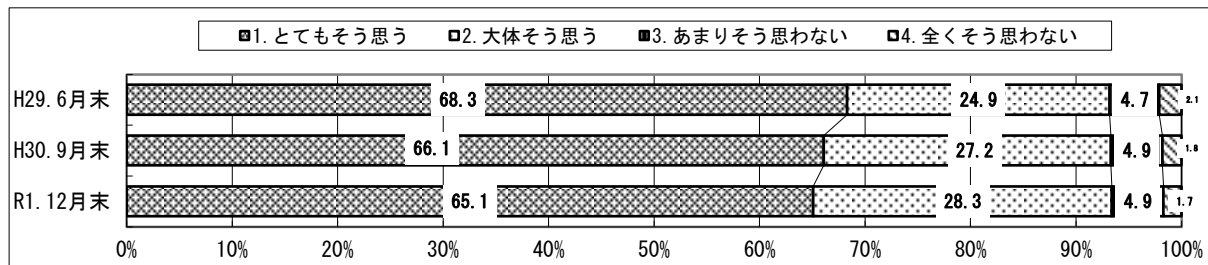
- ア 学期末に時間を設定し、ALTや担任によるスピーキングテストを実施する。
（45分で1クラスが終わるように問題を設定する。）

※ 参考（人吉市教育委員会）

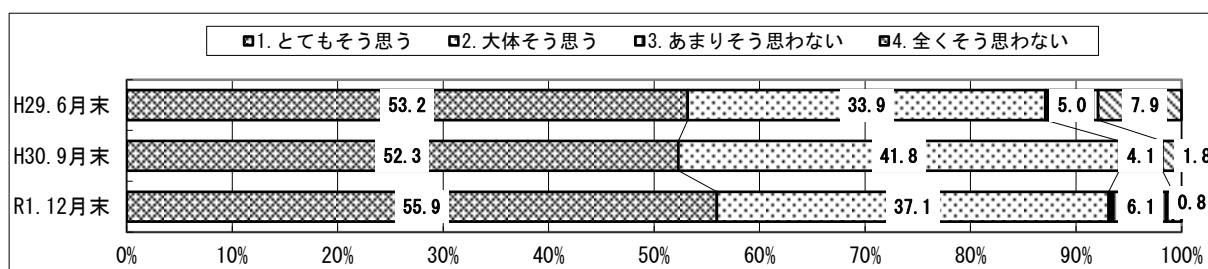
V アンケート結果の考察

1 児童アンケート

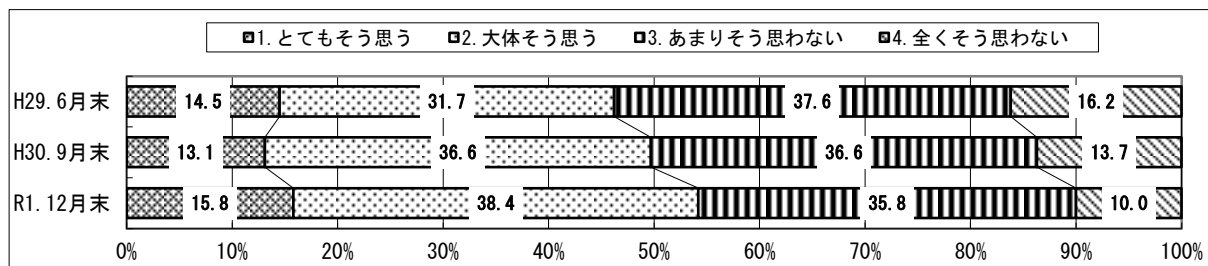
(1) 英語の学習は楽しいか。



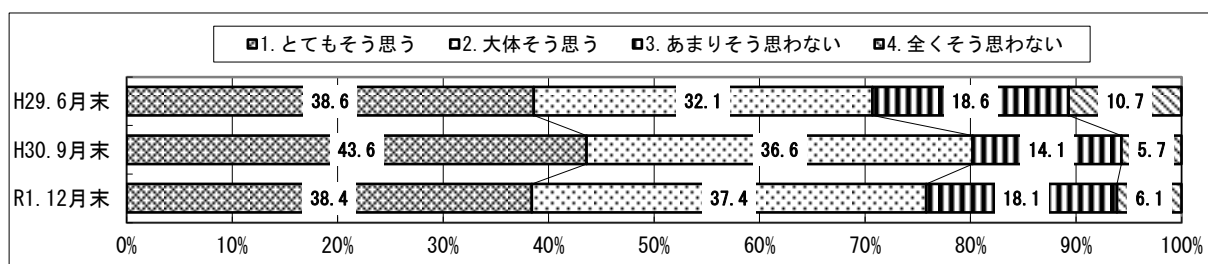
(2) 英語を使う時は、相手のことを考えて、話したり、聞いたりしているか。



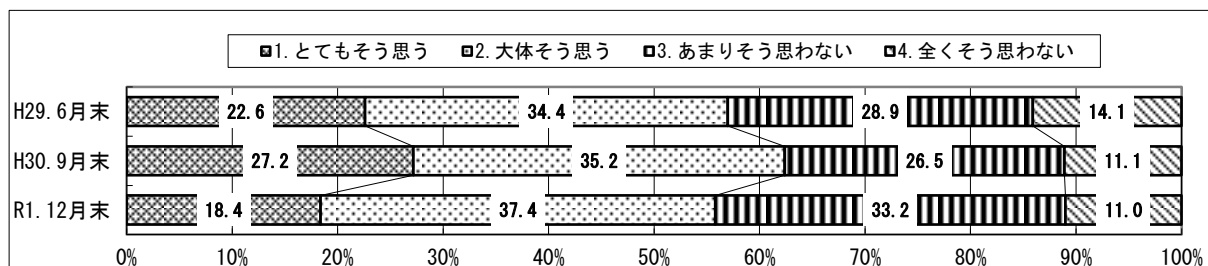
(3) 英語の言葉（単語や文等）を読むことは簡単か。



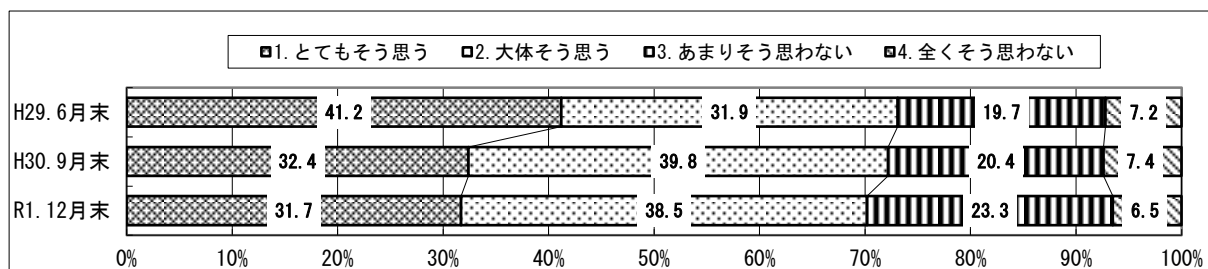
(4) 英語の言葉（単語や文等）を書き写すことは簡単か。



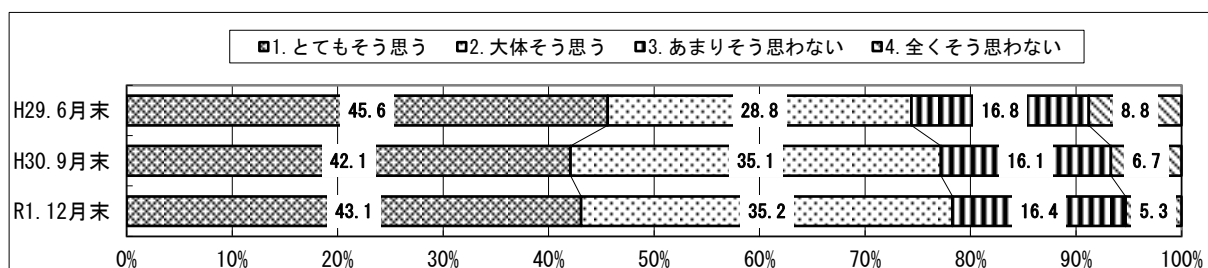
(5) 英語（単語や文等）を聞いて、アルファベットを使って（英語で）書くことは簡単か。



(6) 先生や友達の英語が分からない時は、聞き返したり、質問したりしているか。



(7) 英語の学習では、間違いを気にしないで、英語を使っているか。

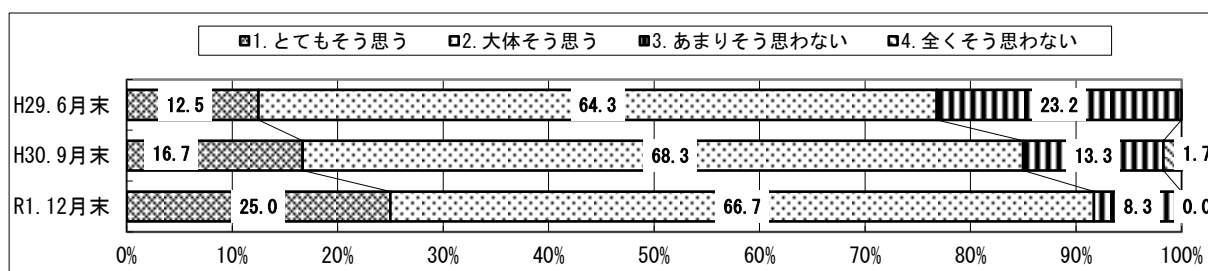


【考察】

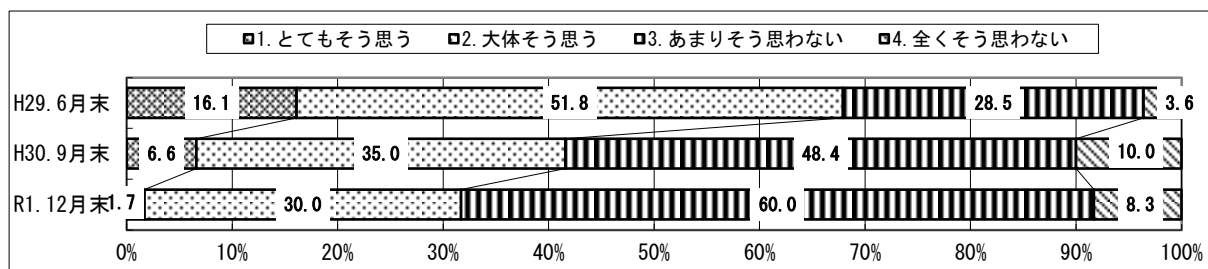
- 英語の学習が好きと答えた児童は、全体の93%にのぼり、楽しみながら英語の学習をしていることが分かる。また、間違っても大丈夫という雰囲気が学級の中に生まれ、間違いを気にせず積極的に英語の学習をしていることが伺える。
- 相手のことを考えて、話したり、聞いたりしている児童が93%に増え、相手意識をもって話したり聞いたりしていることが伺える。必然性のあるコミュニケーション活動の工夫の成果が表れていると推測できる。
- 英語の言葉を読んだり書き写したりすることに抵抗のある児童の割合が減っており、アルファベットタイムでの取組の充実の成果と考えられる。しかし、アルファベットを使って書くことを苦手としている児童がまだいることから、アルファベットタイムの在り方（時間配分や書かせる分量）を再考する必要がある。
- 英語が分からない時は、聞き返したり、質問したりしている児童は、減少している。その原因として、学習内容の理解が進み、分からなくても推測などで自己解決していることが挙げられる。

2 教師アンケート

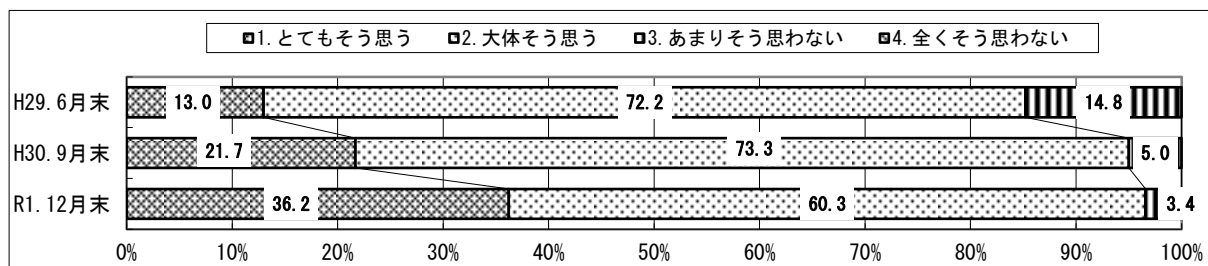
(1) 英語は好きか。



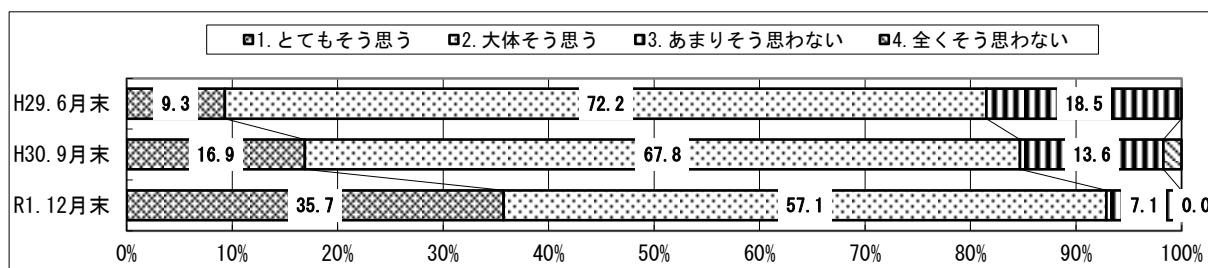
(2) 英語を教えることへの不安はあるか。



(3) 英語の学習では、間違いを恐れず、英語を使おうとしているか。



(4) 英語の学習では、クラスルーム・イングリッシュを使っているか。



【考察】

- 英語に苦手意識をもつ教師の割合が減り、指導することへの不安があったり間違いを恐れたりする教師も減少している。クラスルーム・イングリッシュを積極的に活用する教師も増えていることから、町全体や校内での研修の積み重ね、ティーチングプランの活用など、指導力向上のための取組が、各教師の意識の変容によりよい影響を与えていると考えられる。

VI 成果と課題

視点1—あさぎり町英語教育をつなぐ「AEEプログラム」による授業づくり

- 「Warm-up Time」において、卓球やテニス等の動作を付けてスピードを変えながら単語練習をする方法を共有することができた。また、児童が意欲的に「Warm-up Time」に取り組むことができた。
- アルファベットタイムの取組の充実により、抵抗なく英語の言葉を読んだり書いたりすることが増えた。また、本年度の中学1年生の実態から、英語を読める生徒が増えていることが分かった。今後も町内の小学校でアルファベットタイムの充実を図り、中学校での学びの基礎基本を育んでいく方向性を確認することができた。
- 必然性のあるコミュニケーション活動を重ねてきたことで、全学年において友だちとのやり取りへの意欲が高まり、分からない時は聞き返したり、自分と比べて聞いたりすることができるようになった。また、相手意識を持ってやり取りをする姿が見られるようになった。
- 小学校で実践しているアルファベットタイムやコミュニケーションタイムが既習表現の定着を図ると同様に、中学校でも既習事項の復習や新出単語の練習の時間が確保されており、9年間を通じて学習内容の定着を図っていくことが確認できた。
- Small Talk からのめあてづくりでは、その場面や語句・表現から「問い」が生まれ、本時の学習に共通しをもって主体的に学習することができた。同時に、未習の表現に自ら気づき、課題として把握できるようになった。
- 「Challenge Time」において中間評価を行うことで、相手意識を高めるとともに、より深い学びを実現させることができ、本時のめあての達成につながった。
- 単元末には「I can!シート」で単元導入時に比べて聞き取れる言葉やできるようになったことが増えたこと等、自らの伸びを確認するとともに、児童の自信を高める学習を行うことができた。シートに児童の考えを残すことで評価にも活用できた。
- 自己評価カードは、評価の観点ごとに児童の達成感や満足感が確認できた。振り返りの場面において、めあてと同じ評価の観点に絞って交流するのに効果的であり、より深い学びにつなげることができた。また、教師の授業評価にも活用できた。
- ▲小学校高学年の評価方法や評価規準を検討し、例示することができた。ただし、あくまで例示の域であり、評価の場面を含め検討していく必要がある。
- ▲アルファベットを使って書くことが苦手な児童は減少しているが、依然として苦手な児童のために、アルファベットタイムの時間設定や書かせる分量を再考する必要がある。
- ▲「読むこと」への自信をさらに高められるように、段階的な学習活動等の工夫を今後も継続していきたい。

視点2—英語に触れ、親しむ環境づくりの工夫

- 英語の学習を好きと答えた児童が増え、間違えを気にせずに積極的に学習している姿が見られた。
- 日課や教育活動を工夫し、児童の興味・関心や季節に応じて英語に触れる場を設営したり、他学年児童と英語で交流する機会の設定を行ったりしたことで、日本や外国の言葉・文化への興味・関心、話したことのない友だちとのコミュニケーション活動や生活の中で使われる身近な英語への興味・関心が高まった。
- ▲各小学校で作成して掲示物を、教育委員会を通じて交換することで、職員の負担を減らしつつ新しい掲示物を児童に見せることができた。しかし、掲示物に関する情報が上手く共有されず、また各小学校のニーズに必ずしも合わない実態もあり、移動展示が滞ることもあった。来年度以降、十分な効果が得られる取組にしていきたい。

視点3—英語指導力向上を図る取組の工夫

- あさぎり町英語教育サポート研修会は、小学校での授業作り方や授業で大切にしている視点について確認する機会となった。
- AEE部会小中連携授業では、小学校と中学校の授業での共通点や相違点を話し合い、小学校で大切にしている知識や技能等について理解を深めることができた。特に、アルファベットタイムの取組によりアルファベットの文字と発音が繋がり、中学校での単語の読みに生かされていることが分かった。今後も、小中連携して研修を重ねることで、より効果的に小中学校の授業実践につながると考えられる。
- 町内全体や校内の研修の積み重ねやティーチングプランの活用により、英語を教えることに対する不安が低くなった。また、クラスルームイングリッシュを積極的に使う教師の割合も高くなった。
- ▲小学校高学年の評価に関しては、AEE部会を中心に検討・試行を重ねた。今後、文部科学省から例示される評価規準等を参考にし、検討する必要がある。